



# 吉子川



令和7年11月28日(金)  
学校だよりNO. 54  
中島村立吉子川小学校  
発行責任者 校長 木戸美智子

## 【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

## 【よしコッピ】

吉子川小学校  
のあやめの花に  
住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの  
十か条 (11月)  
力を合わせてみんなで前進  
仲間がいるから頑張れる

## ◇ 言葉遣いについて考えましょう！ ~ 「個別懇談」での相談多数！ ~ ◇

担任の先生方から、個別懇談での相談件数が多いものとして、「言葉遣い」が挙げられました。家庭で子どもが乱暴な言葉を使っているかどうかを敏感に感じていただいていることに安心しました。学校でも、子どもたちの「言葉遣い」について指導が必要であるという話し合いをしました。先生方は、保護者の皆様と同じ思いです。

さて、「乱暴な言葉」には必ず「初めて」があり、何かの場面で乱暴な言葉がふっと口について出てくるはずです。一人一人の子どもの言葉の乱れを初期段階で察知できるのは学校よりむしろ家庭にあると思います。子どもたちは友達や年上の子が乱暴な言葉を使っているのをどこかで聞いてきます。その言葉に含まれているニュアンスを嗅ぎ分けて、自分も使ってみようとするのです。必ずどこかで「初めて」使ってみようする、使い始めの時期があるはずです。

例えば、1年生の子どもが「ムカツク」と言う言葉を使ったとして、その場の感情を正確にきちんと表しているかどうかは微妙です。用例として正しくない場合も多いです。小さい子どもが、分からずに使っているから“かわいいものだ”と zwar, 見過ごしてしまいそうな場合もあるかもしれません。「ババア」を突然使い出すと言うことはまずありません。たいていは母子げんかの場面や母からの何らかの指示が不服であった場面などで、腹を立てた子どもが言い放つのではないかと思います。ものすごく腹が立って少々の暴言を吐いてしまうのは仕方がない場面はあるかもしれません。しかし、**小さい子どもが意味もよく分からずに乱暴な言葉を使ったにしても、どれだけ腹が立っていた時に使ったにしても、言葉遣いとして正しくないということは、はっきり示すようにしましょう。**

見逃してはいけません。  
引き下がってはいけません。  
ひるんてしまってはいけません。  
断固として、間違った言葉をただすべきです。



もし、母親で手におえなければ、父親もきちんと関わり、謝罪と訂正を求め、今後乱暴な言葉を使わない約束をするとよいと思います。何事でもそうですが、言葉の指導も初期段階の方が効果があります。家庭内で初めて使った時に、ぴしゃりと注意する。「こんな言葉使ってはまずい」と本人の心に呵責の念が残っているうちに指導する。友達と一緒に常用、乱用するようになれば、手遅れになってしまいます。学校では今はそこまでではありませんが、家庭ではいかがでしょうか？ **放っておくと、そのうち感覚が麻痺しだし注意しても「だってみんな使っているもん」と受け流されるようになってしまいます。**

また、近年はレイティングで示された年齢以下であるのに、ネットゲームを楽しんでいる子どもがいます。**ゲームの中のチャット機能などで「死ね」「殺す」「殺せ」が横行しているそうです。**大人の責任も大きいと思います。少し前の話題ですが、2004年6月の長崎県佐世保市の小6女児殺害事件では、ネットでの加害者女児の裏の顔がクローズアップされました。「乱暴な言葉」の無自覚な使用が、子どもたちの気持ちのもつれの原因の大きな要素だったのではないかと言われていました。

**★ キレる★ムカツク★イラダツ★ムナシイ★終わってる★ウザイ★キショイ★ザコ！  
★ バカか？★○ね！★消えろ★呼び捨て★ハアー！？★サイマー★最悪★etc……**

上のような言葉を普段の会話の中で使ってしまう子どもたちの心の奥底にはストレスや不安があるのかもしれません。感覚が麻痺しているのかもしれません。かっこよいことだと勘違いしているのかもしれません。そのような言葉を使うことで友達と仲良くなれると思っているのかも…。子どもたちとどう向き合うのか。ご家庭でも子どもと一緒にお考えになる機会をおもちください。**学校でも全職員で指導してまいります。**